

平成28年度 第1号



八幡山延命寺の護摩炉 (武蔵野市)

昭和46年市指定有形文化財第1号として指定。

八幡山延命寺の開基は1672年関前村の開村当時といわれ、開山時の多くの遺宝の1つ。密教の法具で護摩を焚く時に用いる炉で材質は銅。炉の刻銘から、秋田藩5代藩主佐竹義峰の寄進によると考えられています。

■ 目次 ■

- 巻頭言 着任のご挨拶.....(1)
- 平成28年度北多摩東地区保護司会定期総会.....(2)
- 多摩連情報.....(2)
- 春の褒章受章者・社会を明るくする運動.....(3)
- 社会を明るくする運動.....(4)
- ぶんくつピックス.....(5)
- ぶんくつピックス・地域活動部会.....(6)
- 地域別定例研修.....(7)
- 更生保護女性会活動報告.....(7)
- 桐友会だより.....(7)
- 市の橋.....(8)
- 退任保護司紹介、新任・転入保護司紹介.....(8)
- 編集後記.....(8)

本年4月1日付けで東京保護観察所立川支部長を拝命いたしました。立川支部での勤務は初めてとなりますが、ここ多摩の地は、私が生まれ育った故郷であり、東京・多摩の安全・安心のために日夜、ご尽力をいただいている更生保護関係者の皆様、関係機関・団体の皆様への感謝を胸に、改めて一緒に仕事をさせていただく幸せを感じています。次第です。どうぞよろしくお願いたします。

さて、近年、再犯・再非行の防止が安全・安心な社会の構築に不可欠であるとして、政府一丸となって様々な施策が打ち出されています。

更生保護においても、平成20年に基本法である更生保護法が施行されるとともに各種制度の充実が進められ、昨年度は社会貢献活動が本格的に実施され、また、本年6月には刑の一部の執行猶予制度も始まりました。

こうした動きは、再犯・再非行の防止に向けた更生、

れた責任もこれまで以上に重くなっていることが感じられ、より一層身が引き締まる思いがいたします。

保護観察所といたしましては、引き続き保護司の皆様のご理解とご協力を得て、ともに社会の期待に応え、また、重責を果たすことができるよう努めてまいりたいと考えております。

そして、多摩の更生保護のために何ができるか、多摩の安全・安心のためにすべきことは何か、ということに常に念頭に置き、はなはだ微力ではありますが、立川支部管内における様々な課題にも全力で取り組む所存でありますので、今後とも皆様の更なるご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



着任のご挨拶

東京保護観察所立川支部長

村木 康弘

保護に対する社会的期待の表れであるとともに、更生保護に課せら

平成28年度

北多摩東地区保護司会定期総会について

尾崎 幸信

北多摩東地区保護司会平成28年度定期総会が、4月27日(水)武蔵野スイングホールで開催されました。出席保護司58名と来賓13名、各市事務局9名合計80名のご参加を頂きました。須崎英夫北多摩東地区保護司会会長の挨拶の後、東京保護観察所立川支部の村木康弘支部長にご挨拶を頂きました。

次に総会の議事に移り、議長には三鷹分区の片野理代氏、副議長に武蔵野分区の山崎祐子氏が選出されました。森田忠男副会長から平成27年度活動報告があり、続いて平成27年度収入・支出決算の報告を松村久子会計理事から、茂木巖監事からは監査報告がありました。右記2

案の活動報告・決算報告はともに承認されました。そして、平成28年度活動計画を須崎会長が説明し、関連議案として平成28年度収支予算案を松村久子会計理事が説明した後、両議案とも承認されました。

本来でしたら4市の各市長からご挨拶を頂く予定でしたが、他の行事と重なったため、ご出席は三鷹市の清原慶子市長のみでしたが、清原市長と代理出席された各市の副市長、並びに担当部長から祝辞を頂き、さらに4市の市議会を代表して篠原ひろし小金井市議会議長から祝辞を頂きました。多摩地区保護司会連絡協議会野崎重弥会長からは祝辞の中で、これからの保護司会の在り方についての貴重なお話を頂きました。ご来賓の紹介と祝電の披露は、星野直治副会長が担当しました。最後に、閉会の言葉を小山茂副会長が述べ、総会は無事に終了しました。

その後、懇親会に移り和やかな雰囲気の中に、お開きとなりました。

多摩連情報

●平成27年度保護司研修会

平成28年2月5日(金)に立川第2法務総合庁舎9階大会議室において、保護司研修会が実施されました。

山本讓司氏を迎え、「福祉的視点で考える更正保護」という演題で講演会を行いました。

山本讓司氏についてはご存知の方も多いと思いますが、今から17年前、秘書給与流用事件で衆議院議員という立場から一転、逮捕、起訴され、その後懲役1年6か月という実刑判決を受けて1年2か月の間、栃木県の黒羽刑務所で服役しました。

出所後は作家活動によって刑務所の実体を社会に向けて明らかにし、また、厚労省、法務省に働きかけて、刑務所へのソーシャルワーカーの配置や、都道府県ごとの「地域生活定着支援センター」の設置に力を尽くされてきました。介護福祉士の資格を取り、障がいを持つ出所者を支える活動も続けておられます。

最後に山本さんは私たちに問いかけます。障がいを持つ受刑者の

9割は「役立たず」「キモい」などと疎外する「冷たい社会」から要保護者として刑務所に収容されているのではないかと。そんな人たちに必要なのは、自助？公助？いや、共助でしょう！と。

これは社会のあり方が問われている問題！障がい者と自分の違いを見るのではなく、99パーセントは同じ人間だ、ということを中心にとどめておきたいものです。

(国分寺分区 戸倉 央江)

●平成28年度多摩連理事會

平成28年5月16日(月)、東京保護観察所立川支部会議室において、保護司代表者会議に引き続き多摩連理事會が開催されました。

各地区から理事70名が出席し、平成27年度の事業報告、収支決算報告、平成28年度の事業計画、収支予算の審議・承認が行われました。

平成28年度事業の変更点は、次のとおりです。

1. 例年行われていた、多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典・感謝状贈呈を廃止する。
2. 従来の保護司研修に代わり、多摩地区全保護司を対象に、保護司全体研修会を開催する。(平成29年2月16日(木)予定)



春の褒章受章者

藍綬褒章

保護司 砂崎國男氏



平成28年度春の褒章において、砂崎國男氏（武蔵野分区）が藍綬褒章を受章されました。砂崎氏は平成2年9月、保護司を拝命、平成26年10月に法務大臣表彰を受章、多くのケースを担当し活躍されました。

衷心よりお祝い申し上げます。



第66回

社会を明るくする運動

小金井分区

駅頭広報活動

7月1日

（金）午後4時より、武蔵小金井駅及び東小金井駅頭において「社会を明るくする運動」の事業の一環として、啓発品（ポケットティッシュ）の配布を行いました。



武蔵小金井駅では西岡市長・小山分区長の挨拶に引き続き、保護司7名を始め、各団体より26名が参加し広報活動を行いました。

また、東小金井駅では、保護司5名のほか各団体より26名が参加しました。

今回も市内の中学校より16名が参加し、大きな声で広報活動を行いました。
子ども映画会

7月21日（木）に「社会を明るくする運動」の事業の一環として、アニメーション映画「ミニオンズ」

が収容力1500人の中央大学付属高校講堂において開催されました。心配された雨も小降りになり、市内各地より772名の子供たちが集まりました。

また、「ミニオンズ」の上映に先立ち、パラパラマンガで感動を呼び起こした鉄拳が、過ちを犯した少年が保護司や地域の人々に温かく見守られながら立ち直っていくストーリーで作成した作品が、今回同時に上映されました。



小金井阿波おどり大会、街頭広報活動

第38回小金井阿波おどりが7月23日（土）、小金井市のJR武蔵小金井駅周辺で開幕しました。延べ5万人の観衆が見守る中、市外からの参加を含む26連・約1500人が、お囃子に乗って息の合った

踊りを披露しました。

保護司会より、16名が参加し、500枚の竹うちわ配布による広報活動を行いました。
（信山 勝由）

国分寺分区

ひまわり畑観察とひまわり迷路

国分寺市社明運動推進委員会の前副委員長森田林三さんの畑を借りして行っている「社会を明るくする運動」ひまわり畑作りも今年で6年目となりました。

今年のひまわり畑は、種まき後に鳥に食い荒らされ、最終的には苗まで育てて移植するなど鳥害と戦いながらも、例年より遅咲きでしたが見事に開花しました。

7月30日（土）には、足立区の民生委員（現職とOB）・社協・教育長と事務局を含む約35名がひ



示を見ながら和やかに交流することができました。

また、8月中旬から、今年も市内4園の保育園児約125名を招いて「ひまわり迷路」を楽しんでもらいました。ひまわり迷路には楽しそうに駆け巡る子ども達の歓声が響いていました。(林 博行)



まわり畑の視察に訪れました。国分寺市から関係者約10名が参加し、ひまわり畑の写真展

武蔵野分区

天候にも恵まれた7月2日(土)正午から、武蔵境と吉祥寺のJR中央線の駅の回りにて今年度の「社会を明るくする運動」の強調月間としてのPR活動が行われました。

邑上守正武蔵野市長をはじめ、各関係団体の方々が、たすきをかけ、通られる方一人一人に声かけをして、ポケットティッシュ、メモ用紙等を配りました。

武蔵野分区では、4月の「桜まつり」に始まり、これからも各地域での「七夕のつどい」「むさしのFM放送出演」「境まつり」「八幡山延命寺薬師講縁日」「本宿盆



踊り」「桜堤コミセン祭り」、11月の「青空市」と、社明活動が続く予定です。(大久保良子)

三鷹分区

7月1日(金)16時より、社会を明るくする運動の広報活動が、三鷹駅南口で行われました。暑い日でしたが、清原慶子三鷹市長をはじめ、三鷹警察署長、各関係団体の推進委員の皆様、第二中学校・第四中学校の生徒達、計100名の参加を頂き、皆様タスキを掛けのほりを上げ、リーフレットとウェットティッシュの配布を行い、社会を明るくする運動をアピールしました。



また7月27日(水)9時30分より、「映画のつどい」が開催されました。ショートムービー「鉄拳パラマンガ」の上映を行いました。映画終了後は、ごみ処理施設見学がありました。(中野美智子)



ぶ
ん
く
ト
ピ
ツ
ク
ス

武蔵野分區



甲府刑務所を視察して

6月2日(木)晴天に恵まれた中央高速道路より富士山を眺めつつ、総勢17名甲府刑務所を視察させていただきました。

甲府刑務所は、明治2年に徒刑場として設置。明治7年には監獄署となりました。平成13年からは、外国人の受刑者も收容、現在は薬物依存者とともに外国人の受刑者も増加傾向にあり、刑務所と



して特別改善指導を行っています。薬物依存者に対しては、「薬物依存離脱指導」を、外国人受刑者に対しては、「日本語教育」を実施しているそうです。

グローバルゼーションの波が国内の刑務所にも押しよせていることを実感しました。(松田多恵子)

三鷹分區



前橋刑務所の視察

5月17日(火)、18日(水)、管外研修と今年退任予定の3人の壮行会を行いました。

午後から、目的の前橋刑務所で説明の後、所内を見学しました。施設の歴史は古く、明治3年から、今の前橋に移転したのは明治21年です。周りは荘厳な赤レンガに囲まれていました。



「刑務所の赤い煉瓦に昔見る」ここは犯罪傾向の進んだ受刑者の男子のみ939名收容されていて平均



44回、最高27回入所の人もいるとのことでした。87歳が最高年齢だそうです。その人なら出所していたのは数年かも？

この刑務所の課題は、①高齢者の処遇 ②就労支援 ③医者さんの不足、特に現在常駐のお医者さんはいないので困っているとのことでした。宿泊先では、今年退任予定の片野さん、薄田さん、馬詰さん3名のベテラン保護司の経験談を拝聴しました。

次の日はロープウェイで榛名山に登り頂上から晴れた山々を見渡して鋭気を養って帰って来ました。

「鶯の鳴く音もうれし榛名富士」(音田 大樹)

小金井分區



水府学院を視察して

6月7日(火)に茨城県の水府学院を研修視察しました。

水府学院の象徴、乙女の像が優しく微笑みかけています。

当学院では、集団生活を行って来た人とそうでない人の違いは、人間のつながり方にあると思います。家庭や学校でできなかった「共生共育」(次長の言葉)を受け、共同生活が出来るようになり、「それが院の方針である」と語る次長さんの案内で各施設を見学しました。体育館では、院生の



作品「いつもありがとう、やさしく対応、思ってくれて（ちょっと照れくさい）お母さんへ」という感謝の言葉を見て心が安らぎました。院長室の入口には（皆さん元気していますか、ハッピーバースデーの歌声は忘れない）水府障害クラブの先生よりの手紙が掲げてありました。院生には、二度とこの場所に戻ってほしくないとの心の中で祈り、2時間半の研修を無事終ることができました。（渡辺 卓利）

国分寺分区



福島自立更生促進センターを視察して

平成28年6月3日（金）4日（土）、15名で訪れたのは、福島自立更生促進センターです。

同敷地内の福島保護観察所には、前立川支部長の南元英夫氏が所長として就任



されてお
り表敬訪
問となり
ました。
自立更
生促進セ
ンターは、
仮釈放者
の社会復
帰に向け
て保護観
察官のき

め細かな指導や支援を受けながら自立・更生する宿泊施設だが、開設に至るまでは住民の反対運動に遭い、難産だったといえます。現在も地域住民の理解を得るため、入所者選定基準や定員など、地域住民等で構成される運営連絡会議によるチェックを受けています。

更生保護政策の必要性、真の姿の理解が一般には普及していない実情にふれました。

本来の趣旨に近づけていくためには、立ち直りを支える「地域の力」の力とは何か。

それは私たちが引き受けなければならぬ問いだといふ気がしました。（石井 一也）

地域活動部会の活動

地活部会の活動は毎年「社会を明るくする運動」から始まります。

7月は強調月間で各地区最寄りの駅頭で、リーフレットやティッシュ等を配り広報活動を行います。各地区の7月の運動では、武蔵野地区は境祭り。小金井地区はこども映画会、国分寺地区はひまわりコンサート（8月）、三鷹地区は市の商工祭りそれぞれ広報活動をおこなっております。

関係機関との連携活動については、講演会でNPO法人キッズドア理事長渡辺由美子氏に、今日問題になっている「子供の貧困」について講演（9月16日）を予定しています。講演終了後、各4地区に分かれてグループ討議を行い「青少年の問題」について話し合いを行います。

BBS会との合同研修は毎年施設を見学しておりますが、今年もBBS会と地活部会で意見交換会を計画しております。

社会参加活動については、昨年度に保護観察所において社会貢献

活動を対象者に義務付ける制度が出来ました。地活部としてはその趣旨を踏まえて社会参加活動を取りやめました。三鷹分区では地域の活動として今年も行う予定です。地活部としては各行事を通じてこれからも広報活動を積極的におこなってまいりたいと思います。

（地域活動部 岡田 英一）



地域別定例研修

平成28年度 第I期地域別定例研修

研修テーマ「少年の保護観察」

今年度最初の地域別定例研修が6月14日(火)に国分寺市立本多公民館で、6月16日(木)には武蔵野スイングホールで、それぞれ開催されました。

北多摩東地区担当の羽田信行保護観察官の講義と事例検討、質疑応答の形で進められました。

少年の犯罪者・再犯者を増やさないことによる安心・安全な社会の実現、少子化社会の中で、今後の社会を支える青少年の健全育成等の観点から、非行少年の改善更生は、社会の重要な課題の一つです。



このような中、昨年少年院法の改正、及び少年鑑別所法の制定施行等、少年に対する法制度の改正がありました。また、少年に対する保護観察のポイントは、時間を

かけて少年に接し、信頼関係を築くのが大切だということが、講義を聞いて良くわかりました。今回も大変有意義な研修でした。

(研修部 大澤 正男)

平成27年度 第III期地域別定例研修

研修テーマ「就労支援を考える」

平成28年2月19日(金) 国分寺市本町・南町地域センター 担当 小林主任官

○平成28年2月26日(金)

武蔵野スイングビル

担当 林田主任官



更生保護女性会活動報告

総会を終えて

北多摩東地区更生保護女性会

会長 立川 八重子

5月9日(月)に小金井市の「萌え木ホール」において平成28年

度の総会が開催されました。

当日は、東京保護観察所立川支部 長村木康弘様、東京更生保護女性連盟副会長矢野美恵子様、北多摩東地区保護司会会長須崎英夫様をはじめ、4市の分区長の皆様、多数の会員の皆様のご出席をいただきました。

議案の全てをご承認いただきました。

議事終了後、あきやま子どもクリニックの秋山千枝子院長先生に「児童虐待」について講演をしていただきました。

先生は、虐待をしてしまった母親へ支援をしていますので、虐待につながるような子どもの育て方のお話をいただきました。今後の更女活動にいかしていただきたいと思います。

また今年度は、関東地方更生保護女性連盟よりミニ集会の当番地区の指定を受けました。

保護司

会の皆様にはご協力をいただきますようお願い申し上げます。



桐友会だより

山代 法道



本年5月19日 武蔵野市において平成28年度の北多摩東桐友会総会が開催されました。

当日は、ご来賓として北多摩東地区保護司会の須崎英夫会長、4市の分区長(副会長)及び同地区更生保護女性会の立川八重子会長にご出席いただきました。

桐友会員の出席は13名でした。総会は、平成27年度の事業報告・決算報告に続いて同28年度の事業計画・予算案が審議され、原案どおり議決されました。

昨年度の実施行事は、例年同様、地区及び分区保護司会の行う行事への参加が中心で、その他、役員会、武蔵野分区会員による懇親会の実施でした。

本年6月29日(水)開催の東京桐友会の理事会にて役員の改選があり、会長 藤田静男(大田)、副会長春名三郎(板橋) 坂本 登(西多摩) 金井兼吉(江戸川・留任)の方々が就任されました。

年二回発行 昭和四十八年十月一日創刊

平成二十八年九月一日発行

発行者 編集人

北多摩東地区保護司会 孤島法夫 電話〇四二(三八二)一〇七一

三鷹市「万助橋」

吉祥寺通りの玉川上水にかかる橋。安政年間に下連雀村の渡邊萬助氏が、近くのお寺の杉の木を使って架けたものと言われています。現在の大きな橋になったのは昭和38年3月ですが、老朽化のため平成6年8月に架け替えられました。



武蔵野市「いちよう橋・ぎんなん橋」

平成23年に現在の新武蔵境通り開通を機に、車道の橋「いちよう橋」と歩道の橋「ぎんなん橋」が建設されました。ぎんなん橋の下には、日本を代表する航空機メーカーであった中島飛行機武蔵製作所の工場引込み線の橋台跡があります。



橋

国分寺市「不動橋」

国分寺村の元町用水と野川が合流するところに架かる橋です。橋の北側に不動明王碑が祭られていることから名付けられました。



碑の横には庚申塔があり、松の木をはさんで石橋供養塔があります。

現在は木製ですが、かつては石橋でした。

小金井市「陣屋橋」

市内には約60の橋があります。玉川上水に架かるこの橋は、江戸中期に新田開発のために建てた陣屋(役所)の前にありました。代官川崎平右衛門の配下高木三郎兵衛が駐在し、名主関勘左衛門らが陣屋道に続くこの橋を往来して農民のために尽力しました。



退任保護司

永い間お疲れ様でした。今後も益々お元気でご活躍下さいますよう祈念申し上げます。

伊藤 紀子氏 (武蔵野分区)

平成28年8月31日 (在職28年)

砂崎 國男氏 (武蔵野分区)

平成28年8月31日 (在職26年)

片野 理代氏 (三鷹分区)

平成28年5月31日 (在職16年)

馬詰 耕輔氏 (三鷹分区)

平成28年8月31日 (在職20年)

薄田 有鄰氏 (三鷹分区)

平成28年8月31日 (在職12年)

新任保護司

左記の方が委嘱されました。今後のご活躍を期待致します。



(武蔵野分区) 木川 憲子氏
平成28年9月1日発令



(武蔵野分区) 伊藤 さつき氏
平成28年9月1日発令

転入保護司

今後のご活躍を期待致します。



(小金井分区) 宅島 正孝氏
平成28年5月1日
長崎保護区から

編集後記

会報のカラー化から11号目、モノクロ版の魅力もありますが、カラーの現実感、鮮やかさ、見易さなどが定着してきたように思います。また、4市の特徴を紹介するコーナーも花、キャラクター、玉川上水、坂と続き、本号の橋で5企画目となります。これからも4市の魅力が出てきますのでご期待下さい。

ご寄稿戴きました皆様には、部員一同心からお礼申し上げます。広報部員一同

